

各地の活動報告～岩手・宮古拠点から

岩手・宮古を拠点に活動を続けてきた第一陣からの報告が入りました。蓄積する疲労と闘いつつも、着々と作業を進め、被災地の皆さんとの交流も深めている様子が伝わってきます。以下、現地からの報告です。

宮古におけるボランティア第1陣は、UIゼンセン同盟からのボランティア班11人が常駐体制をとり、連日、連合岩手の構成組織（JR総連、自動車総連、JAM、国公連合、情報労連など）から6～10名の応援が入り、これを概ね3班にわけ、ボランティア活動やボランティアセンターの運営などにあたっている。

当日の流れは、まず現地の社協に出向き、当日の訪問先と作業の確認、必要機材などの補充を受け、概ね10:00～15:00まで作業を行う。



社協での作業説明をうける連合ボランティア班

●4月2日

この日、ボランティア班は宮古や大槌をマイクロバス1台で移動し、それぞれ現場にむかった。効率的に動くには、より現場に近いところまで入ることができるライトバンなどが多くあった方が便利との意見がだされた。

主な作業は、家屋からの泥出し、家財搬出など。防塵のメガネ、マスクが非常に役立っている。作業は肉体労働が基本なため、ゴム手袋も厚手の耐油手袋が大いに活躍。軍手の上にゴム手袋をはめるとフィット感もアップするとの意見。（いずれも連合のボランティアセンターで用意済みのもの）

また、被災者の方からの要望も非常に多様で、アンテナを外してほしい、エアコンを外してほしいなど、ペンチやカッターなどが必要な場面もあった。ボランティアの面々にとってはもちろん専門外の作業だが、できる限りの対応を行うことでとても感謝されている。

家屋の土砂出しは非常に重労働で、一輪車（ネコ）が土砂の重みでパンクを起こしていた。それほど頑張り様だ。

また、ここでは仮設風呂の管理も行っている。浴室の環境整備や水質・水温管理などが主な任務。

●4月3日

この日は避難所にいる被災者のニーズ調査を社協からの依頼で行う。被災から3週間以上たち、なかなか先も見えない状況の中で、そろそろ仮設住宅に移りたいなど、次のステップへのニーズが出てきている。心のケアも必要性が高まっている。

他の班では、個人宅の泥出しを行った。家屋と裏山の間での泥出しも行う。1日では終わらず、翌日も続ける予定。

仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。



避難所でのニーズ調査に入るボランティア班

●4月4日

この日は、泥出しやがれき搬出のほか、地元商店でのカーペットをはがしなどを行った。ポンドで止められたカーペットをはがすのにとても手を焼いた模様。

仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。



浸水した民家の床板はがしを行う

●4月5日

地元企業の依頼で、ビールやジュースの缶や瓶の洗浄を行った。日頃の土砂出しなどと比べると比較的負荷はかからないが、不自然な姿勢で長時間洗浄しなければならず、腰などの疲労度はかなり高い様子。

また、キッチンの取り外しなども行った。仮設風呂の管理はこの日も通常どおり行われた。

連日、明るく頑張るボランティアの皆さんだが、作業も5日目を迎え、かなりの疲労蓄積がうかがえる。それでも笑顔を絶やさずに頑張る姿は、被災者の方の励みにもなっている。

作業の合間に、ただ被災者の方の話を聞いているだけでも、他愛もない会話を交わしているだけでも、人の心がつながっていく感じが感じられた。



家屋周辺の泥出し作業。
かなりの力仕事で30分に一度は休まないとヘトヘトに。

—— 第一陣の日程は今日が最終日。岩手・宮城組は今夜、福島組は明朝現地を出発し、帰途につきます。作業を終えた参加者の皆さんからは、クタクタになりながらも、充実感とともに「もう少し残りたい」との声も寄せられています。皆さんの思いは第二陣以降の皆さんが引き継いでいきます。連日の作業で疲労がたまっていると思いますが、最後まで安全に十分気を付けて戻ってきて頂きたいと思います。

ご協力をお願いします！

———仙台拠点への荷物発送について

構成組織から仙台拠点（宮交会館）に直接荷物を直送するケースが見られますが、宮交会館は宮城交通労組の事務所と別棟になっているため、荷物の受け取りで同労組の方々に負担がかかっています。

現地に荷物を届けたい場合は、事前に連合本部・ボランティア班（非正規労働センター）にご相談ください。現地の負担軽減へのご協力をお願いします！